マリスさんを偲んで　　2014.7.30

ハリラヤとは，一か月の苦行（ラマダン）を乗り切ったあと，家族全員が実家に集まってお祝いをするイスラム教徒にとって最も大切な日です．7/29，今年のハリラヤの 2 日目のことです．ラナウでは珍しく朝からどんよりとした曇り空で，恰も，マリスさんの死を悼んでいるようでした．昨晩，ルンキャンさん一族のファミリーハリラヤに招待されました．その席でマリスさんが病院へ運ばれたことを知り，容体を確認しましたが，さほど悪いという印象を持ちませんでした．

早朝に，昨晩，マリスさんが亡くなり，ファミリーハリラヤのあと，未明にかけてオスマンさんとルンキャンさんが諸事を整えられたことを拝聴し，驚きながらも，早速，弔問に伺いました．正面にキナバル山が見える彼女の館の 2 階で棺に納まって安らかに眠っておられました．穏やかだが威厳に満ちた表情をしておられました．しばらくドイツに行っておられ，確か，１０日ほど前にドイツから戻って来られたばかりです．彼女は，気さくで豪快なドイツ人であり，ワイン，煙草，珈琲など度が過ぎると体に良くないと言われているものが大好きでした．彼女の館はオスマンさんが所有するスラゴンホームステイの敷地の中の高台に約 30 年前に建てられたものであり，たくさんの犬と同じ屋根の下で暮らしておられました．以前，「なぜ，ここを終の棲家に選んだのか」と質問したことがあります．「この地の人が好きだから」というのが答えでした．ドイツから戻って来られて少し具合が悪いというお話を訊いていました．あまりにも急な出来事でしたが，きっと，大好きなこの地から永遠の旅発ちをするために戻って来られたのだと思います．

マリスさんとオスマンさんの親交はおよそ４０年前に始まったそうです．お二人ともラナウで教鞭を取っておられました．その後，オスマンさんはアメリカへ留学されました．マリスさんは，教職を続けられました．子供が大好きであり，貧しい子供たちの世話をよくし，家に招いて食事を供されていました．フルートを演奏されていたことがあり，リコーダーを子供たちに教えておられました．

マリスさんはジャム作りの名人です．スラゴンホームステイに滞在した多くの日本人女性は彼女から生姜ジャムの作り方を伝授されました．私のホームページの「料理に関すること」の章に彼女直伝のレシピーを掲載しています．

彼女の誕生日は，２月１４日です．毎年，たくさんのドイツ料理とケーキを作り，私たちを招待して下さいました．その日スラゴンホームステイに宿泊する人は誰彼なく招待されるのが習わしになっていましたので，避寒に訪れた多くの日本人も彼女の誕生日を祝福しながらご馳走になったこと思います．勿論，私も今年 76 歳になられた彼女のパーティーに出席いたしました．例年，パーティーには彼女が世話をしている子供たち，彼女の友人，牧師さん，彼女のスタフ，オスマンさん一家など大勢が参加し，彼女を祝福しました．

マリスさんを偲んで

2014.7.30

7/30，今日はマリスさんのお葬式が行われました．生前の幅広いご活躍と交友関係のせいだと思いますが，パイリーンご夫妻をはじめとして 100 人以上の人が参列していました．パイリーンは，ここサバ州で最も著名で影響力のある人物です．式の終わりに子供たちがリコーダーで「蛍の光」と「アメージンググレイス」を演奏して棺を送り出しました．サンダカン道路をしばらく走り右に折れて山道に入り 10 分位行った山の斜面にマリスさんは埋葬されました．晴れればそこからキナバル山がよく見えます．

ラナウに魅せられこの地をことのほか愛されたマリスさんが，この地で安らかに眠られました．謹んで哀悼の意を表すとともに，そのお見事な生きざまに深甚なる敬意を表します．